

# KG JOURNAL

関西学院大学 総合政策学部  
佐山ゼミ4年  
赤澤 樹 石野 和佳奈  
櫻井 晴菜 小野 麻里子  
平成27年11月発行



## 聞き取り会を実施しました

私たち関西学院大学 総合政策学部 佐山ゼミ生四人が、平成二十七年一〇月十七、十八日に山内地区6箇所(黒川・山中・山文原・猪鼻・笹路)で聞き取り会を実施しました。この聞き取り会では心象図法(心に刻まれたふるさとの思い出を絵にする手法)を用いた「ふるさと絵図」を作成するために、昭和十年〜二十年代の山内地域の風景や暮らしを、七十五歳以上の古老の方々にお話を伺いました。

ふるさと絵図は、現在滋賀県内で三〇地域以上の地域で作成されており、地域の歴史、文化を次世代につなげるだけでなく、記憶を提供された古老の方々に、語り部として活躍して頂くという、重要なツールとして期待されています。ふるさと絵図の活動は、地域活性化、環境教育、保健福祉等多くの分野で効果が見込めるだけでなく、地域が自信を取り戻す大切な活動であると言われています。

二日間の聞き取り会では、それぞれの地区毎に貴重なお話を聞かせていただきました。農作業の大変さと工夫、地域のお祭りごと等の行事、川遊びや戦前戦後の学校、どの話も都会暮らしの大学生にとって新鮮なものでした。また、十七日の夜には懇親会を実施し、山内地区の美味しい食べ物を頂きながら、聞き取り会では聞けなかった話にも花を咲かせました。この絵図作りでは、各地区それぞれの絵図を作成するという点で、他の地区と異なります。そのため、聞き取りを行う時間や回数も他の地区よりもたくさん必要となりますが、地区毎に思いの詰まった素晴らしい絵図が完成するでしょう。

これから私たち大学生も、絵図作りのサポートを行うとともに、山内の皆さんに恩返しをしたいと思っています。



櫻井晴菜



赤澤樹



KG Students Presents

## 山内のええとこ Best3

### NO1 人のあたたかさ

他所から来た人に優しい。これも宿場町の名残か？

### NO2 文化のけい承

太鼓祭り等昔の風習が今でも継承されている

### NO3 自然の恵み

きれいな空気、自然豊かな緑、美味しい食べ物美味しい食べものなど、都会で出会えないものが溢れている

#### 気づいた課題

- ・ 太鼓祭り等の文化の継承  
少子化の影響もあるが…
- ・ 獣害  
シカ、イノシシ、サルへの対策



石野和佳奈



小野麻里子

山内の良さを受け継ぐ、若い世代が活躍できる場作りが必要なのではないでしょうか。

**赤澤樹**  
歴史的背景や文化を深く知らずに山内に入ってきた私たちを、皆さんは温かく迎えてくださり、初めは緊張していましたが、すぐにたくさんのお話を伺ってみたいと思いました。科学技術の発展が進んでいる社会の中で、伝統文化を組み込むことは難しいかも知れませんが、昔ながらの知恵や技術に驚かされることもたくさんありました。絵図作りを通じて、どのように山内の魅力を描きだし伝えるのか、地域をつなげていくものにするのか、少しでも力になりたいと思いました。田舎ならではの人と人とのつながりや自然とのつながりというものを、思い出話や実際に肌で感じる事ができた二日間でした。

**櫻井晴菜**  
初めはうまく話を引き出せるか、どんな話を聞けるか、期待と不安でいっぱいでした。いざ聞き取りが始まると、皆さんがいまいる話さ、あつと言つ間に時間が過ぎてゆきました。特に印象に残っているのは、みなさん「今の子はかわいそうや」とおっしゃられたことです。叱られなれていないので、いっぺんきつく言われただけで「こたれる」。ある方は「昔は賞味期限なんてなくて、アレルギーや花粉症はなかった」と。すべてあてはまる私は、みなさんがうらやましく感じました。今はこの二日間で伺ったお話を元に私なりにお返ししたいと思っています。

Thank you for YAMAUCHI  
ありがとう 山内のみなさん

**小野麻里子**  
聞き取りではどのように話を切り出し、話を深め、話題を切り替えていくかに注目していました。二時間という時間の中で、地形のことや子どもの頃の遊びなど、とても速いテンポで幅広い話が繰り広げられました。女性だけのグループでは、主に結婚やその後の生活等女性ならではの経験をとても楽しく聞くことができました。しかし、絵を描くための材料を集めることが目的だと考えすぎてしまい、話題が単発になってしまいました。さまざまな視点から話を聞くことで、季節感や当時の風景につながる事が聞くことができたのではないかと思います。

**石野和佳奈**  
この聞き取りを通じて、古老の方にお話を聞くことの大切さを感じました。学校の授業やテレビなどで、自分では昔の生活を知っているつもりでしたが、あくまでそれはつもりだったのだと実感しました。自分がその場で話を伺うことで不思議に思ったことも質問で記、頭に入っているイメージしやすかったです。本やテレビといった媒体ではなく、自身が体全体で参加し感じることで、客観的でなく主観的に動くので非常に身にしみました。山内の皆さんは本当に歓迎してくれ私たちも聞きやすかったです。

